



学校だより

5月号

横浜市立東本郷小学校

令和8年4月28日

第589号

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

育ちあう日々

学校長 堂腰 康博

朝のことです。その日は舞い落ちた八重桜の花びらが校庭を桃色に染めていました。登校してきた子どもたちは、通路の一角にふんわりと重なったその花びらに気づくと足を止め、両手ですくい上げ空に向かって放ちます。くるくると舞う花びらに声が弾み、「わあ、雪みたい」と友達と笑い合う姿が広がっていきました。心を動かし、感じたことを言葉にし、誰かと共有する。その素直な感性に、学びの芽が息づいています。毎日が発見と楽しさで満ち、「今日はこれをやりたい」と胸を躍らせながら登校する子どもたち。新学期から数週間、それぞれのペースで新しい生活を歩み始めています。

一方、新しい環境でがんばってきた1年生の中には、少し疲れが出てきて、おうちの方と離れるのがつらくなる姿も見られます。校門や昇降口、教室前の廊下で、保護者のみなさんは登校を急がせるのではなく、立ち止まり、子どもの声や表情に耳を傾けながら、その子が自分で一步を踏み出そうとするのを待ってくださっています。背中を押すすぎず、気持ちを受けとめて見送ってくださる温かなまなざしに、わたしたち教職員も日々力をもらっています。本当にありがとうございます。

そうしたやさしさに包まれて育ってきたからでしょう。学校には、泣いている子や困っている子に自然と寄り添える1年生の姿がたくさんあります。ある男の子は、同じ保育園だった友達が昇降口で「家に帰りたい」と泣いているのを見ると、言葉をかけることなく、その隣に座りました。そして、肩にそっと手を置き、トントンとしながら、15分近くも寄り添い続けてくれました。やがて、友達は落ち着き、自分でくつを履き替え、教室へ向かって歩き出していったのでした。

ピンクの花びらを放り上げる無邪気な姿も、友達の涙にそっと寄り添う姿も、子どもたちは誰かに「そうしなさい」と教えられて身につけたものではないと思います。自然の美しさに心を動かすこと人の思いに気づいて行動できること— それらは、これまでに出会ってきた大人や友達、やさしい人たちとの関わりの中で、大切に受けとめられ、育まれてきた感性なのだと思うのです。

人の話に耳を傾けられるのは、まず自分の話をじっくり聴いてもらえたという安心感があるから。人にやさしくできるのは、誰かにやさしくしてもらった経験が心の奥にしっかりと根付いているから。泣いている友達のそばに15分間も寄り添った1年生の男の子も、これまでの園生活でたくさんのやさしさを受け取ってきた一人です。子どもたちは強く、まっすぐ育っています。大人が支えているつもりでいて、日々、子どもたちの姿から励まされ学ばされていることに気づきます、これからも、家庭・地域・学校が、ともに子どもたちの「育つ力」を信じて、一人一人が放つ光を大切に見つめていきたいと思っています。



本校の「架け橋カリキュラム」で学ぶ1年生の様子が、NHK総合TVで放送される予定です。よろしければご覧ください。

① 5月7日(木) 18:10~19:00 首都圏ネットワーク内 ② 5月8日(金) 19:30~19:58 首都圏情報局ネタドリ!